

奨学生募集要項（2026年度）

No. 512-1

直接応募（C区分）

奨学団体名 (奨学金名称)	ANRI人文奨学金		
2026 募集人数	人文フェローシップ枠10名 USチャレンジ枠5名		
募集学年	学部生 博士（博士後期）課程 修士（博士前期）課程		
募集学部・研究科 研究分野等	人文系分野の研究に取り組む者 (政治学や社会学、経済学、その他融合領域なども含めて、広く人文社会系の研究が対象)		
財団締切時期	2026年6月7日（火）		
給付	年額 500,000円	貸与	無
授業料相当額支給	無		
(採用時) 一時金	無		
併給	併給可	年齢制限	35歳以下 ※USチャレンジ枠は25歳以下（2026年6月7日時点）
就労制限	—	出身地制限	無
その他応募条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年8月21日に開催予定の交流会に参加可能な者 ・ANRIの媒体を通して、研究成果を発信できる者 ・一度のみの助成とし、同一・異なるテーマでも最新性は不可※ただし落選した場合は次年度以降再申請可 ・申請を希望する者は、財団HP応募フォームよりエントリーすること 		

ANRI人文奨学金

未完の問い、

第二期募集開始

ANRI

人文奨学金 ～未完の問い～

第二期（2026～2027年度）募集要項

応募期間：2026年4月7日 - 6月7日

ABOUT

趣旨

ベンチャーキャピタル（VC）であるANRIは、「圧倒的な未来（Beyond Future）」をビジョンとして掲げ、技術革新や社会変革を目指す企業に投資を行ってきました。その実現のために、基礎科学研究のための給付型奨学金「未解の知～The ANRI Fellowship～」を8年前から開始し、理系の基礎科学研究者の支援をさせていただいております。

そのような支援をしていくなかで、昨今のテクノロジーが急速に進展する現代においてこそ、技術への投資と同時に「人間や社会に対する理解」を深化させることが不可欠であると業務を通じて実感するようになりました。

その観点から、人文系の研究は、社会をより良い方向へ導き未来を拓く重要な鍵を握っている可能性があると考え、従来の基礎科学研究のための奨学金だけでなく人文系研究のための奨学金も始めていく必要があると思い、この奨学金の募集を発表するに至りました。ANRI人文奨学金では、人文系研究がもたらす具体的な社会的インパクトを重視し、新たな視点から未来を考える／切り拓く問いを生む気概がある若手研究者を支援していきたいと考えております。

ANRI人文奨学金 第2期に寄せて —— "未完の問い"

ANRI人文奨学金の第2期を始めるにあたって、改めて、なぜベンチャーキャピタルであるANRIが人文知に対する奨学金を行っているのかを書いておきたい。

ビジネスの基本は課題解決だと言われる。問いを「解くべき課題」に変換し、答えを出していく営みだ。理工系の学問に注目が集まるのも、この「問いと解決」のサイクルを回せるからだろう。ANRIが別途行っている基礎科学の奨学金「未解の知」も、まだ誰も踏み込んでいない領域に立ち向かう研究者を支援するものであり、それは非常に大事なことだ。

一方で、人文知の力はもっと手前にある。答えを出すことではなく、問い自体を生むことにあるのではないかと思っている。人間や社会と向き合うとき、たった一つの正解があるわけではない。時代によって解釈は変わり、永遠に「解けた」とは言えない問いがある。そういう問いを考え続けられること——それが人文知の、何ものにも代えがたい役割なのだと個人的には捉えている。

第1期の募集に向けて、自分はこう書いた。1期を終えた今、この考えはより強くなった。

"いつか、何かの形で社会に還元されるかもしれないし、あるいはまったく実用化されないかもしれない。それでも、"問いを消さない"ことの大切さは、この資本主義と効率化が猛スピードで回る世界では、ますます貴重になるのではないかと思う。"

だから第2期から「未完の問い」というものをタグラインに掲げたい。人間や社会には、完結した答えなどない。常に未完であり、だからこそ問い続ける価値がある。その未完の問いに向き合い続ける研究者を支援することで、問いを絶やさない世界をつくっていきたい。

私たちANRIは「圧倒的未來」の実現を掲げている。けれど圧倒的未來とは何か、社内で話してもひとりひとり答えが違ふ。それでいいのだと今は思う。世界情勢が揺れ動く今だからこそ、「これだけが正しい」というものではなく、多様な問いを持つことこそが、圧倒的未來をつくることにつながる——1期を通じて、そう確信した。

今回も、気概ある研究者を支援できることを心から楽しみにしている。

ANRIジェネラルパートナー 中路準輔

GRANT OVERVIEW

助成概要

メイン枠

人文フェローシップ

50万円/名

採択人数：最大10名

給付型・返還義務なし。資金使途は研究関連費・生活費を含め完全自由（領収書不要）。助成期間は採択より1年間。

U25 チャレンジ枠（新設）

U25チャレンジ
フェローシップ

10万円/名

採択人数：最大5名

25歳以下の若手研究者を対象とした新設枠。給付型・返還義務なし。資金使途は完全自由（領収書不要）。

ELIGIBILITY

応募資格

- ✓ 人文系分野の研究に取り組む 35歳以下（2026年6月7日時点）の大学院生、ポスドク、学部生、高校生、フリースタットの研究者。国籍や所属は問いません。
- ✓ 狭義の人文系に限らず、政治学や社会学、経済学、その他融合領域なども含めて、広く人文社会系の研究が対象です。
- ✓ U25チャレンジ枠は 25歳以下（2026年6月7日時点）が対象です。

- ✓ 2026年8月21日（金）に開催予定の交流会に参加可能であること。
- ✓ ANRIの媒体（ポッドキャストやweb記事、ZINEなど）を通して、研究成果を発信していただけること。
- ✓ ※ 一度のみの助成とし、同一・異なるテーマでも再申請は不可。ただし落選した場合には次年度以降、改めて応募が可能です。

SCHEDULE

選考スケジュール

2026年4月7日（火）

応募受付開始

2026年6月7日（日）23:59 JST

応募締切

2026年6月30日まで

一次選考（書類審査）結果通知

※ メールにてご連絡いたします。

2026年7月中

二次選考（Zoomによるオンライン面接）

2026年8月21日（金）13:00-17:00

第1回 交流会

※ 採択者は必ずこの日程にご参加いただくことが条件です。各採択者には、自身の研究について10分程度のプレゼンを行っていただきます。

CRITERIA

選考基準

- ✓ 研究内容の具体性と社会・未来への影響力：あなたの研究が、社会や未来をどのように変革し、発展に貢献できるかについて具体的に示されていること
- ✓ 従来の枠組みにとらわれない新たな発想と挑戦意欲：既存の学問領域や方法論に縛られず、独自の視点で問いを立て、探求する姿勢があること
- ✓ 学問に対する真摯な姿勢：研究に対する誠実さと、知的探求への深い情熱を持っていること

IDEAL CANDIDATE

求める人物像

- 自身の研究が社会や未来に及ぼす影響を明確に認識し、その意義を説明できる方
- 研究成果を社会へ発信する意欲を持ち、他分野の人々と積極的に交流できる方
- 異なる領域との対話を楽しみ、新たな視点や知見を柔軟に取り入れられる方

HOW TO APPLY

応募方法

以下の応募フォーム（Googleフォーム）より必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

提出書類

- 研究タイトル、研究目的、研究の実施内容、研究状況、あなたの研究が社会や未来に与える影響を説明した申請書（応募フォーム内）

応募はこちら

応募締切：2026年6月7日（日）23:59（日本時間）

[応募フォームを開く](#) →

OBLIGATIONS

採択者の義務

交流会への参加

採択者同士や奨学金関係者との交流を深める機会として、交流会を実施いたします。各採択者には、自身の研究について10分程度のプレゼンを行なっていただきます。

- 2026年8月21日（金）13:00–17:00：第1回交流会（参加必須）
- 2026年12月～2027年1月頃：懇親会を企画（詳細は後日案内）

研究成果の発信

ANRIの媒体（ポッドキャストやweb記事、ZINEなど）を通して、研究成果を発信していただきます。

DISCLOSURE

情報公開について

当奨学金の広報や報告を目的として、採択者の氏名・所属・研究テーマ等を公表させていただく場合があります。

成果の要旨や概要などをメディアに掲載する場合は、事前に採択者と協議のうえ実施します。

CANCELLATION

助成の中止・返還について

以下の場合、助成を中止または返還を求める可能性があります。

- 申請書類に重大な虚偽が含まれていたと認められる場合
- 長期間にわたり連絡が取れない場合
- 研究の遂行が著しく困難になった場合
- 他者の名誉や信用を著しく傷つける行為があった場合
- 他者の知的財産権や肖像権を侵害する行為があった場合
- その他ANRIとの信頼関係を著しく損ねる行為が確認された場合

1ST COHORT

第1期の活動

2025年度の第1期では、採択フェローによるポッドキャスト配信やZINE制作など、多様なアウトリーチ活動を行いました。



Podcast

Spotifyで聴く →



人文ZINE

PDF準備中（近日公開）

FAQ

よくある質問

Q フリーランスや高校生でも応募できますか？

はい、大学や研究機関に所属していない方でも、人文系の研究を本格的に進めている方であればご応募いただけます。

Q 助成金は本当に自由に使ってよいのでしょうか？

原則として用途を制限しておりません。領収書の提出も不要です。ただし学会参加費や渡航費、書籍購入など、研究活動に活かしていただくことを推奨いたします。

Q 選考方法はどのような形ですか？

書類選考とweb面接で選考を行います。採否はメールにてお知らせいたします。選考に関するフィードバックはございません。

Q 過去に同じテーマで応募して落選しました。再度応募できますか？

落選した場合は、次年度以降も再応募が可能です。一方で、一度採択された方は同一テーマ・異なるテーマを問わず再申請はできません。

Q 助成期間中に所属や立場が変わる可能性があります。どう対応すればよいですか？

研究継続に支障がなければ問題ございません。もし研究が継続できない状態になった場合は、お早めに事務局までご連絡ください。

Q 知的財産の扱いについて教えてください。

研究成果や知的財産権は原則として研究者本人に帰属いたします。ただし、当奨学金の広報や成果共有を目的として、研究テーマや概要の公開をお願いする場合があります。

Q 交流会や懇親会の具体的な日程はいつですか？

採択決定後の交流会は2026年8月21日（金）13:00-17:00、懇親会は2026年12月～2027年1月頃を予定しています。正式な日時や会場は採択者に別途ご案内いたします。

Q 懇親会の参加は任意と書かれていますが、参加しなくても良いのでしょうか？

採択者およびANRI関係者との重要な交流の機会となりますので、やむを得ない事情が無い限りは出席をお願いいたします。

Q 現在、海外の大学に留学中なのですが、交流会や懇親会にオンラインで参加することは可能でしょうか。

第1回交流会（2026年8月21日）は必ず対面でご参加いただくことが応募条件です。なお、交流会出席にあたっての航空券代は、ご自身でのご負担をお願いいたします。国内交通費につきましては主催者側で負担いたします。2回目以降の懇親会等については、遠方や海外在住などやむを得ない事情がある場合はオンラインでのご参加も可能です。

Q 応募フォームは英語で記入してもよいですか？

はい、英語でのご記入も可能です。応募フォームは日本語または英語のいずれでもご記入いただけます。言語による有利・不利はございませんので、ご自身の書きやすい言語をお選びください。

Q 応募後に申請内容や提出資料の修正・差し替えはできますか？

締切り前の再応募は可能です。ただし、公平な審査を行うため、締切後の申請書や提出資料の修正・差し替えは受け付けておりません。必ず提出前に十分ご確認ください。

Q U25チャレンジ枠に採択された場合、次年度以降に一般枠へ応募できますか？

U25チャレンジ枠と一般枠は、別枠での審査となります。U25チャレンジ枠で採択された方が次年度以降に応募された場合は、一般枠での審査対象となります。ただし、一度採択された研究テーマでの再申請は審査対象外となるため、別テーマでのご応募が必要です。なお、U25チャレンジ枠での審査を希望されない場合は、応募フォームにその旨をご記載ください。

Q それ以外の質問や相談はどこに問い合わせればよいですか？

下記のメールアドレス宛にお問い合わせください。

メールマガジン登録

ANRI人文奨学金の最新情報（採択者インタビュー・ポッドキャスト・募集案内など）をSubstackでお届けします。

[メールマガジンに登録する](#) →

CONTACT

お問い合わせ

ご質問・ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

Email : humanities-staff@anri.vc